



「生きるために必要不可欠な水」

石巻市立山下中学校 3年 阿部 遥

私達が生きていくために一番大切なものは水だと思います。蛇口をひねり、普段何気なく使っている水ですが、私達の生命を保つものであると同時に、水によって大事な生命や自然が破壊されてしまうこともあり、水ははかり知れないほど大きな力をもっています。

もし、川の水や海の水がなくなってしまうたら、どうになってしまうのでしょうか。川や海に住んでいる、魚や貝などといった生き物が生活できなくなってしまうます。私達はそれらの生き物を調理し、食べていますので、川や海の水がなくなってしまうことによって、私達の食料が減り、私達の生命にも大きく関わることになってしまいます。人間だけではありません。この地球上の動物、そして植物などにとっても、大変重要なものなのです。

しかし、水によって大切な命、自然が破壊されてしまうこともあります。二〇一一年に起こった東日本大震災では、津波で多くの人々の命が犠牲になり、たくさんの自然が破壊されてしまいました。私は東日本大震災で、忘れたくても忘れられない、生々しい経験をしました。避難した学校の校舎から外を見た時、校庭に止まっていた車が水の下に沈んでしまっていました。当時小学一年生だった私はその光景を見た時、水の恐ろしさを知りました。今でも覚えています。きっと一生忘れることはないでしょう。

一方で、水の大切さも学びました。普段はあたり前のように蛇口をひねると出てくる水ですが、震災の時は水が止まってしまい、蛇口をひねっても水が出ませんでした。井戸があるお家から、洗い物をするための水を分けてもらい、井戸水を沸かしたお風呂にも入れてもらいました。当時は幼かったので、よく分かっていませんでしたが、今振り返ってみると、すごくありがたいことだったのだと思います。東日本大震災で私は、水がもつ力の恐ろしさ、水のありがたさの両方を学びました。

震災の経験から、浄水場では、停電時にも浄水施設が稼働することのできる、非常用自家発電設備や、断水時には、給水車に飲料水を注入することのできる、応急給水設備といった設備を整えているそうです。こういった設備によって、いつ起こるか分からない災害時においても、私達が生きるために必要不可欠な水を得ることができるのです。

普段何気なく利用している水ですが、水はたくさんの人、多くの機械によって、安全に作られています。水は無限ではありません。ですから、水を無駄にすることはいけないのです。顔を洗う際や、歯を磨く際、入浴の際などに水を出しっぱなしにすることは、無駄なことです。水をきれいに、安全にしてくださっている、浄水場の方々や、大切な資源である水に、感謝しなければならぬと私は思います。水を無駄にしないためには、節水を意識しなければなりません。水を無駄にしないで、少しでも節約をする意識をもっていれば、水を出しっぱなしにしたりなどは決してしなくなるはずで。

一九五九年から、厚生労働省により、水道週間が始まりました。六月一日から、六月七日までの七日間で、今年もう終わってしまいましたが、水について改めて考える、良い機会になりました。自然の恵みである水、そして、水をきれいに、安全にくださるたくさんの人々に感謝しましょう。それから、水について改めて考え、今まで以上に、水を大切にしていけるべきではないでしょうか。

そのために私は、自分を見つめ直し、常に節水の意識を高くもっていきたいと思います。そして、私の弟や家族、身近な友達など、周りにいるたくさんの人に、この文章を読んでもらい、水を大切にすることを共有していければいいと思います。共有し合うことによって、たくさんの方々の水に対する考えが変わり、水を大切にすることができると思います。自然の恵みである水を、この世界にいる全員で守り、大事にしていきましょう。